



「安全と品質」究め、成田とともに発展

森本 義規 社長

成田空港で日本航空（JAL）などの航空貨物上屋業務を担うJALカーゴサービス（JCG）はきょう、1982年10月14日の創立から40周年を迎えた。当初は、JALの航空貨物の取り扱いを主業としていた同社。しかし、成田に就航する航空会社と航空貨物量の増加、さらにはJALの経営破綻を経て、現在は多数の航空会社から上屋業務を請け負う。自ら稼ぐ企業に進化したJCGの将来像を、森本義規社長に聞いた。（文中敬称略）

JAL破綻で“自ら稼ぐ”企業に

——40周年、事業が拡大し続けている。

森本 新型コロナウイルスによる航空貨物需要の急増もあり、2021年度の売上高は創業以来、過去最高だった。まずは当社に貨物を託していただいたお客様と、平時とは勝手が違う中でも多忙な業務を粛々と遂行してくれた社員に深く感謝を申し上げます。

この40周年を機に転換点として思い起こされるのは、やはり10年のJALの経営破綻だ。JALが貨物専用機による国際貨物輸送から撤退したことで、成田の総貨物量のおよそ半分を取り扱っていた当社のシェアは一気に20%台まで低下した。当社にとっ

ては、JALから外国航空会社などに流れた貨物のハンドリングを受託することで、失ったシェアを取り戻す戦いが始まった。

当時、当社に与えられたのは、従来のJALのハンドリング部門としての位置づけから、「独立した会社として稼ぐ」というミッションだった。JCGとして保税蔵置場の免許を取得し、11年から日航貨物ビルを始めとする施設の倉主となることで主体性を持って事業に取り組む体制に移行した。この40年、当社の最大の価値として位置づけてきたのは、何よりも「安全と品質」。高品質な業務体制を基盤に、より付加価値の高いサービスを提供することで、外国航空会社からの業務受託を増やしてきた。現在、成田で上屋業務を受託する航空会社は45社

を数え、成田におけるシェアも30%台となっている。

「お客様の期待を超える」

——今後のJCGにとっての「高品質なサービス」、そして「付加価値」とは。森本 お客様のニーズを先取りする、お客様の期待を超えるサービスを心がけている。

当社の変わらない価値として「安全と品質」を挙げたが、当社はこれをお客様が期待する以上に、120%の力で応えたい。品質のみならずリードタイムやカットタイムを短縮するなど付加価値サービスを実現できるよう、設備・人財投資を通じて体制づくりを進めていきたい。

例えば、繁忙期の成田ではスペースに限られることからどうしても貨物

地区の混雑や貨物の滞留といった問題が発生するが、当社はこれに対応すべく、いち早く17年に高層の自動ラックを導入した。ウェブでの搬出予約システムも活用して貨物の保管と搬出入を効率化し、フォークリフトによる積み込み作業も当社が行うことで、スムーズな引き渡しを実現できている。空港上屋内でお客様に代わって仕分けや配送を請け負う「手倉サービス」など業務の多様化も進めているが、これもお客様のニーズに120%応えたいという思いから力を入れたものだ。

昨年には輸入カウンターのリモート化や、上屋システムの統合・刷新による上屋内へのトラックの出入りの整流化などを進めたが、こうしたITを駆使した設備投資も強化していく。環境対応の強化が求められる中、当社は既に成田で203台中70台のフォークリフトを電動車（EV）に置き換えた。25年にはすべてをEV化する予定だ。

今月初めには、医薬専用定温庫「JAL MEDI PORT」をオープンした。総面積は840平方メートルと空港の医薬品専用庫としては最大で、需要の高い温度帯の保管に対応できる。今後は、JALとして国際航空運送

協会（IATA）の医薬品輸送品質認証「CEIV Pharma」の取得も控えており、医薬品の航空輸送ニーズに万全な品質で応えていきたい。

成田の機能強化、積極的に貢献

——今後、成田空港も機能強化を控える。

森本 成田は東アジア地域からの乗り継ぎ需要も高く、仁川や台北といった近隣の主要空港に負けない、東アジアと米国をつなぐハブ空港としての存在感をもっと世界に示せる。新型コロナ後、国際貨物拠点としての成田の価値も再認識されたばかりだ。

成田の貨物地区はトラックの待機時間の長期化、上屋施設の老朽化・点在が課題になっている。目下、成田空港会社がこれらの課題解決に向けて検討を進めているが、当社も新しくより効率的な貨物地区の再構築に向け、建設的な意見を述べていきたい。また、今後は旅客便の増便が計画され物量が増える羽田との連携も重要だ。当社では19年に羽田事業部を設置しており、成田同様に羽田の機能強化も図っていく。当社の成長は社員の貢献なくしては語れないが、既存の社員はもちろん、新しく入ってくる若い社

1982年	● 10月、国際航空貨物サービス(株) (IACS)設立 ● JALより受託航空会社輸出業務を受託
1992年	● 輸入エアラインカウンター業務受託
1995年	● 日航貨物ターミナル(株)(JALTOS)へ社名変更 ● 輸入上屋業務受託、事業部制導入
1999年	● JALの輸出トラフィック業務全面受託
2000年	● 国内貨物、エアライン郵便業務受託
2001年	● 国際貨物運送サポートセンター機能移管
2006年	● 社名を(株)JALカーゴサービス(JCG)に変更
2008年	● 成田ロジスティックターミナル(株)を合併
2009年	● JALカーゴハンドリングを完全子会社化 ● 日航貨物ビル新事務棟供用開始
2010年	● JALが経営破綻
2011年	● 日航貨物ビルの倉主がJALからJCGへ変わり、JALの成田の貨物事業の運営主体に
2014年	● アメーバ経営本格導入
2017年	● 日航貨物ビル旧事務棟撤去 ● 自動高層ラック・屋根設置
2019年	● 羽田事業部新設・羽田ディスクリプションセンター稼働開始
2020年	● 郵便室新設
2022年	● 創立40周年 ● ロジスティック推進部新設 ● 「JAL MEDI PORT」稼働開始

員や外国人の方々にとっても働きやすい貨物地区になるよう力を尽くしていく。

この40年、当社は成田に本拠地を置き、成田の発展とともに事業を伸ばしてきた。これまでも成田駅前や空港内外の清掃活動、県内のビーチクリーン、お祭り行事といった地域貢献活動に参加してきたが、こうした活動も継続し、地域の皆さまと手を携えて成長していきたい。



2022年10月14日
おかげさまで創立40周年を迎えます

ひとえに多くの皆さまのご支援ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます
日々謙虚に努力・挑戦を続け、永続的な社会の進歩・発展に貢献してまいります
今後とも皆さまのお引き立てを賜りますようよろしくお願い申し上げます

株式会社JALカーゴサービス 代表取締役社長 森本 義規



世界をつなぐ 想いとつなぐ

40 years anniversary

株式会社JALカーゴサービス
TEL 0476-32-8056 (代表)